

AKABIRA



ASHIBETSU



MIKASA



EBETSU



KURIYAMA



NANPORO



YUNI



NAGANUMA



登録学生 466 名

全 7 7 プログラム

延べ参加人数 778 名

目 次

1. 実施結果概要.....	1
2. 登録大学生の分析	
(1) 登録者の属性	02
(2) 延べ参加人数・日数	03
(3) 個人別参加回数	04
(4) 出身地	05
(5) 活動参加評価書	06
3. 実施プログラム概要	
・ 芦別市.....	07
・ 赤平市.....	08
・ 三笠市.....	09
・ 長沼町.....	09
・ 南幌町.....	10
・ 由仁町.....	11
・ 栗山町.....	12
・ 江別市.....	13
・ その他.....	13
4. 成果と課題.....	14

1. 実施結果概要

(1) 実施期間

- ・平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

(2) 事業名称

- ・学生地域定着推進広域連携事業（愛称：ジモガク）

(3) 登録者数

- ・466 名(内訳別途記載)

(4) 実施プログラム数

- ・77 プログラム(一覧は別途記載)

(5) 加盟団体

- ・大学：酪農学園大学、札幌学院大学、北翔大学、北海道情報大学
- ・自治体：芦別市、赤平市、三笠市、南幌町、由仁町、長沼町、栗山町、江別市

(6) 広報活動：大学の新学年ガイダンス、出前講座、チラシ配布等による PR

(7) 地域定着状況

	大学	自治体	就職先	参加した地域活動 プログラム（主なもの）
学生①	北海道情報大学	江別市	民間企業 建設業	・企業インターンシップ （江別市） ・まるごとえべつボラン ティア（江別市）等
学生②	札幌学院大学	江別市	公務員 江別市役所	・市役所インターンシップ （江別市）
学生③	札幌学院大学	江別市	民間企業 物流業	・まるごとえべつボラン ティア（江別市）
学生④	酪農学園大学	長沼町	公務員 長沼町役場	・畑でレストランボラン ティア（江別市） ・ムカデ競走（由仁町）

2. 登録大学生の分析

(1)登録者の属性

①傾向

平成 29 年度の登録者数は、四大学で 466 名となった。所属大学及び性別の内訳は表 2.1 に示す通りである。

②考察

所属大学においては、昨年度同様に講義等で直接 PR をできたり、活動への参加が出席や単位認定されたりする大学での登録者数が多い傾向にある。

学年の内訳は表 2.2 の通りであるが、こちらも昨年同様に 2, 3 年生の割合が高くなっている。但し、昨年度登録した学生がそのまま持ち上がっているため、4 年生の減少幅は昨年程ではない。1 年生は新規の登録となるが、昨年度は 45 名だったのに対し今年度は 68 名と増加している。新入生ガイダンス等、1 年生への働きかけ強化も若干効果があったと思われる。

表 2.1 登録者数

(人)

	男	女	合計	%
札幌学院大学	110	62	172	36.9
北海道情報大学	29	9	38	8.2
北翔大学	26	60	86	18.5
酪農学園大学	89	81	170	36.5
合計	254	212	466	100

表 2.2 登録者の学年

(人)

	1 年	2 年	3 年	4 年	不明	合計
札幌学院大学	22	40	66	44	1	173
北海道情報大学	2	4	9	22	1	38
北翔大学	32	18	19	16	1	86
酪農学園大学	12	58	66	26	7	169
合計	68	120	160	108	10	466

(2)延べ参加人数・日数

①傾向

全 77 プログラムに参加した延べ人数と、延べ日数を以下に整理する（江別市のインターンシップ事業は延べ 257 名の参加となり、比率が大きくなるため、除外した数字で整理した）。

登録者に対する参加回数の比率を表 2.3 の「B/A」で表しているが、全登録者平均は 1.1 となっている。情報大学は、この数値が 2.2 となっている。登録人数に比して複数回参加する大学生が多数いることが要因である。

②考察

昨年同様の傾向が見られるが、一度の活動参加が授業出席に認定される授業がきっかけでの参加や、ゼミ活動の一環として単発の活動に参加した場合は、まとまった人数が参加しても他の活動への参加までつなげられないケースもあり、リピート率を下げる一因になっていると思われる。

表 2.3 参加延べ人数及び参加延べ日数

	登録人数(A)	%	延べ日数(B)	%	B/A
札幌学院	172	36.9	220	42.0	1.3
情報大学	38	8.2	86	16.4	2.3
北翔大学	86	18.5	67	12.8	0.8
酪農学園	170	36.5	151	28.8	0.9
合計	466	100.0	524	100.0	1.1

(3)個人別の参加回数

①傾向

登録者のうち、今年度 1 回でも活動に参加した人数は 192 名となっている。全登録者の約 60%の 275 名は、一度も活動に参加していない（図 2.1）。同じく 2 回以上活動に参加しているのは約 14%にあたる 65 名となった。

②考察

一度も参加していない人数の割合は、昨年度よりも上昇しているが、これは昨年度登録をして一度も参加していない層がそのまま残っていることが原因と考えられる。

高いリピート率となっていた学生が卒業したにも関わらず、一定の複数参加者がいるのは、新しい高リピート者が生まれたことを意味している。一回でも参加すると 34%が二回以上参加し、二回以上参加すると 60%以上が三回以上参加しており、昨年同様の傾向ではあるが、一回目の参加をどう促せるかが鍵となっている。

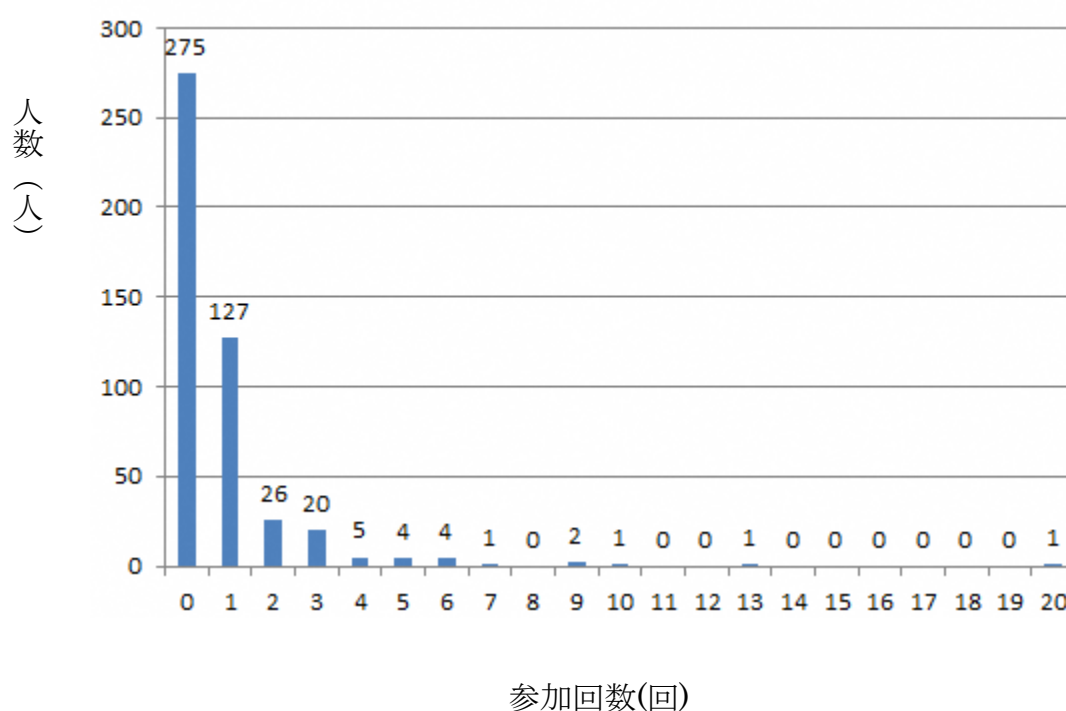


図 2.1 個人別活動参加回数と割合

表 2.5 登録者数に占める 1～3 回参加者の割合

	人数	登録者数に占める%
登録人数	466	
1 回以上参加者数	192	41.2
2 回以上参加者数	65	13.9
3 回以上参加者数	39	8.4

(4)登録学生の出身地

①傾向

登録学生のうち、出身地の分かる学生 306 名について整理した。約 75%は道内出身であり、約 30%は札幌市出身となっている。江別市にある大学に在学する大学生が対象ではあるが、江別市出身の学生は 4%程度となっている。

②考察

江別市を除けば、当事業の活動対象地域の出身者はごく少数であり、この事業を通して初めて関わるケースが多いと思われる。約 25%の道外出身者にとっては、江別以外で初めて関わる道内の自治体というパターンも多くあり、一度の関わりでも強い印象を残せる可能性が高い。

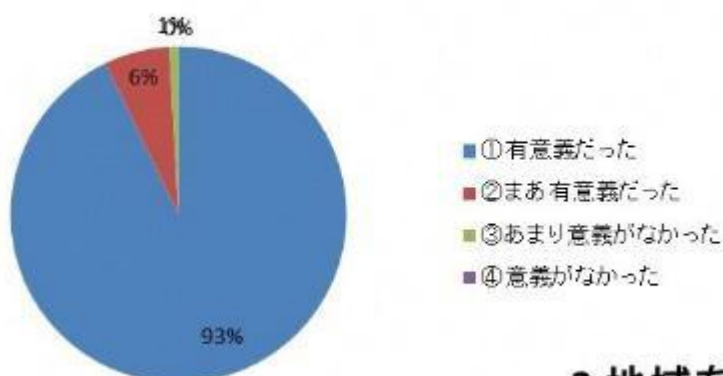
表 2.6 登録学生の出身地

全国別			北海道内		
出身地	人数(人)	%	出身地	人数(人)	%
北海道	229	74.8%	札幌市	68	29.7%
青森県	11	3.6%	帯広市	15	6.6%
東京都	8	2.6%	江別市	10	4.4%
埼玉県	6	2.0%	北見市	7	3.1%
兵庫県	5	1.6%	函館市	7	3.1%
宮城県	5	1.6%	岩見沢市	7	3.1%
その他	42	13.7%	旭川市	7	3.1%
合計	306	100.0%	その他	108	47.2%
			合計	229	100.0%

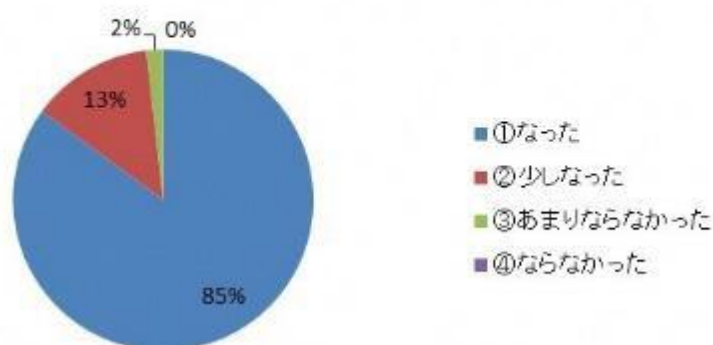
(5)活動参加評価書

活動後に記入する活動参加評価書の集計結果のうち、選択式のみを以下に示す(記述式は参考資料に添付)。この結果についての考察は、「4. 成果と課題」に記載する。

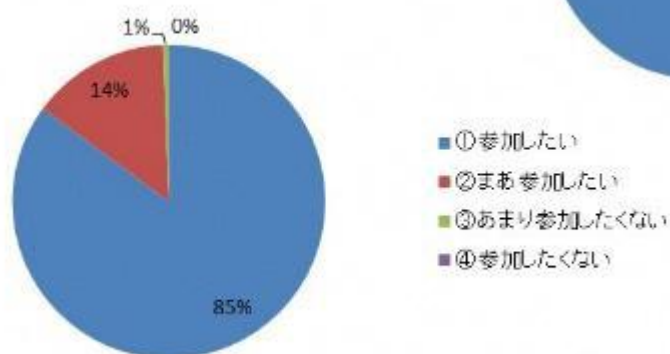
1.自分にとって有意義だったか



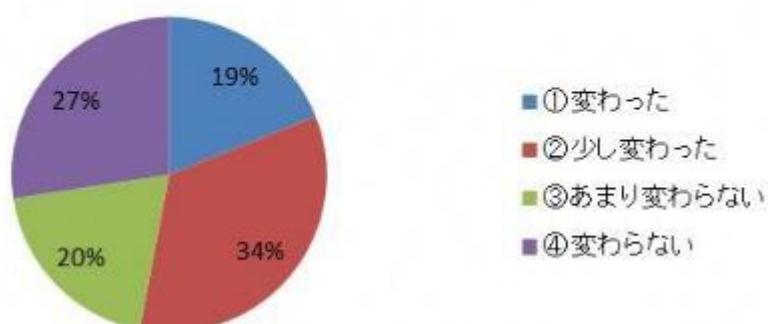
2.地域を知り、良い出会いを得るきっかけになったか



3.今後も参加したいか



4.就職や進路、活動地域に対する意識は変わったか



3. 実施プログラム

【芦別市】

事業名	日本プロ野球 OB ベースボールサマーキャンプ in 芦別	
日程	8月8日(火)～10日(木)	
のべ人数	3	
概要	元プロ野球選手が講師となり小学生向けに開催する野球教室の補助	

事業名	観光検証	
日程	8月23日(水)～25日(金)	
のべ人数	9	
概要	市内の観光資源等について、観光客としてモニタリングを行い、市職員と意見交換を行う	

事業名	企業インターンシップ	
日程	2月26日(月)～28日(水)	
のべ人数	6	
概要	市内企業へ3日間のインターンシップ(株式会社ソラチ)	

【赤平市】

事業名	赤平火まつり	
日程	7月15日(土)15:00～21:00	
のべ人数	2	
概要	赤平市の伝統的なお祭り「赤平火まつり」の「赤フンランナー」として、タイマツリレーに参加	

事業名	教育ボランティア	
日程	7月1日～3月31日 9:30～11:30	
のべ人数	10	
概要	赤平市教委独自の学生対象ボランティアへ登録し、小中学生への学習等を補助	

事業名	学生インターンシップ	
日程	2月19日(月)～23日(金)	
のべ人数	5	
概要	市内企業へ5日間のインターンシップ(株式会社イタガキ)	

【三笠市】

事業名	北海盆踊り	
日程	8月14日(月)～15日(火) 9:30～21:00 10:00～20:30	
のべ人数	10	
概要	北海道の盆踊り発祥の地、北海盆踊りイベントのブース補助など	

【長沼町】

事業名	おいでよ！マオイでなつやすみ 2017	
日程	7月31日(月) 8:00～17:15 8月2日(水) 10:00～17:15	
のべ人数	2	
概要	東日本大震災に関する被災地児童 保養プログラムにスタッフとして参加 し、児童の活動支援を行う。	

事業名	第10回冬のつどい	
日程	2月25日(日) 9:15～13:30	
のべ人数	3	
概要	サポートスタッフとして参加児童(小 学1～2年生)との交流・活動支援を 行う。	

【南幌町】

事業名	自然体験学習	
日程	8月1(火)～4日(金)	
のべ人数	4	
概要	外部指導者として3泊4日の日程でニセコ町をベースにキャンプ・川下り・登山などを行う。	

事業名	野祭	
日程	9月2日(土)10:00～17:00	
のべ人数	8	
概要	農業イベント「野祭(やさい)」の会場設営・撤去、イベント・出店スタッフ	

事業名	小学生の放課後、休日支援(あそびの達人特別教室)	
日程	7月26日(水)～28日(金) 8:00～12:30	
のべ人数	2	
概要	夏休みに開催する「あそびの達人特別教室」開催時の運営ボランティア	

【由仁町】

事業名	全町自治区対抗ソフトボール大会ボランティア	
日程	7月16日(日)7:00～16:00	
のべ人数	3	
概要	全町自治区対抗ソフトボール大会のスタッフ	

事業名	ムカデ競走参加	
日程	7月30日(日)9:30～14:00	
のべ人数	14	
概要	由仁町夏まつりで開催されるムカデ競争の運営補助及び選手としてムカデ競争に参加	

事業名	由仁小学校「冬休み学習会」	
日程	12月25日(月)～27日(水) 9:30～11:00	
のべ人数	14	
概要	由仁小学校の冬休み学習会において、教員の補助	

【栗山町】

事業名	子どもフェスティバル	
日程	10月1日(日) 8:30～13:30	
のべ人数	10	
概要	児童センターでの子どもフェスティバル企画を考え当日ブースを担当	

事業名	はじめてのおつかい	
日程	11月3日(金・祝)9:00～17:00	
のべ人数	5	
概要	商店街イベントで、写真やビデオカメラでの記録、参加者の見守りと安全確保などの運営支援を担当	

事業名	くりやまものづくりDIY工房	
日程	11月10日(金)9:00～17:00	
のべ人数	2	
概要	「ものづくりDIY工房」に関連し、若者視点で人材育成メニュー等を考えるワークショップに参加	

【江別市】

事業名	チョークアート制作	
日程	5月29日(月)～ 6月28(水)、10月3日(火)、6日(木)	
のべ人数	14	
概要	市内商業施設E B R Iの壁面を活用しチョークアートを制作(テーマ:姉妹都市40周年記念など)	

事業名	自治基本条例啓発リーフレット作成のためのワークショップ	
日程	6月27日(火)、7月4日(火)、7月11日(火)18:30～20:30	
のべ人数	26	
概要	ワークショップを通じて、若者向けの自治基本条例PRリーフレットを作成するためアイデアを出し合う	

【その他】

事業名	学生交流会	
日程	3月5日(月)18時～	
参加人数	7名	
概要	ジモガク登録学生の希望者で、今までの活動記録写真を見ながら食事をし、交流を深めた。 参加したもの以外の活動の写真を見たり、直接話を聞いたりすることで、他の活動にも興味を持つきっかけとなった。	

4. 成果と課題

(1) 大学生

成果	課題
参加実績と評価結果 今年度も当事業をきっかけとして、約 200 名の学生が地域の活動に参加した。活動評価書の結果では、「自分にとって有意義だったか」（有意義だった：7%上昇）、「地域を知り、良い出会いを得るきっかけになったか」（なった：7%上昇）、と昨年度よりも高い満足度が得られている。「今後も参加したいか」という継続参加の意欲でも「参加したい」が昨年度よりも 13%上昇しており、全体的にプログラムの満足度が上昇していることが伺える。	未参加学生 一度でも参加すると再度参加する確率は高くなるが、「まず一度参加する」というハードルが高い。これを解決するために、直接アピールをしたり、大学の教員や職員から促されたり、あるいは友達が誘ったりという、対面で背中を押す機会を増やしたい。

(2) 受入地域

成果	課題
①受け入れ態勢の充実 学生の活動に対する満足度が上昇しているのは、受け入れ地域の方々との暖かな触れあいや、地域を知ってもらおうという熱意によるものと思われる。	①募集期間 活動募集から締め切りまでの期間が短いと、参加したくても既にアルバイトの日程が決まっていて参加できない、という声が聞かれた。アルバイトのシフトは一ヶ月単位で決まることが多いため、募集期間は一ヶ月以上あることが理想である。

(3) 運営

成果	課題
大学との連携 新学年ガイダンスでのチラシの配布など、大学側のご協力により、PR の機会が大幅に増えた。直接語りかけられる機会が増えれば、さらに参加者の上昇が見込まれる。 また、直接ご相談できる教員の方が増えることで、より地域のニーズに沿ったマッチングが可能になってきた。	参加学生の確保 特に 7 月下旬から 8 月上旬は、夏祭り等のイベントが多いにも関わらず、大学では夏季休業前のテスト期間に重なり、参加学生を見つけるのは困難になる。それでも、学年によってはテストも少ないこともあるため、各学年等しく登録学生を確保することが重要となる。